

## はじめに

東北大学サイバーサイエンスセンター  
センター長 菅 沼 拓 夫

平成 20 年(2008 年)4 月に、情報シナジー機構を改組してサイバーサイエンスセンターが活動を開始してから、昨年で 10 年が経過しました。本センターはこれまで、全国共同利用施設として、高性能計算やネットワークなど先端学術情報基盤の整備・運用と、これらの基盤を活用した新しい科学(サイバーサイエンス)の創造に関する教育・研究を推進することを目的として活動を続けてまいりました。

本センターの運用と諸活動に関する詳細は、平成 28 年度(2016 年度)から、それまでの「年報」と「自己点検評価報告書」を一本化し、「自己点検評価報告書・年報」として毎年発行しております。本報告書・年報を通じて本センターの運用と活動の状況に関してご理解いただくとともに、今後の運営・活動の展開に対してご指導とご支援をいただけますと幸いです。

東北大学の第 3 期中期目標・中期計画期間(2016 年～2021 年)は、今年度中間評価を迎えましたが、本期間におけるセンターの目標として、以下を掲げています。

- 世界最先端の情報基盤を整備・運用し、先端的な利用技術及び次世代の情報基盤に不可欠な研究開発を行い、独創的な研究推進の環境を創生し、この分野の指導的人材を育成することによって学術研究や産業、地域、文化に貢献する。
- 共同利用・共同研究拠点として、全国の大学等に大規模科学計算機資源を提供するとともに、次世代の情報基盤の研究・開発を行う拠点として先端的研究成果を追求する。

高度情報化における重要なインフラである高性能計算技術や情報通信基盤は、研究活動ばかりでなく、事務機能や教育を支える重要な役割を担っています。本センターでは、先端情報基盤とその整備・運用に関する研究を推進し、当該成果の学内外への提供並びに利活用の支援・促進を目標に、世界最先端の大規模科学計算システムの整備・運用・利用と、最先端の情報基盤の整備・運用・応用の支援について研究開発を実施しています。特に今年度は、学内の情報基盤サービスのクラウド化を推進する様々な取り組みを推進しました。また、当該分野の教育・研究にも積極的に寄与し、学術的な貢献や、実践的な人材の育成にも取り組みながら、その役割を広げております。学内外の高性能計算研究組織との協力体制の充実、及び先端情報基盤に関する国内外の研究機関等との連携協力体制の整備にも努めています。

これらの諸活動における令和元年度の成果について、本報告書にとりまとめて掲載させていただいております。本報告書をご覧いただき、今後も関係各位のご指導とご支援を頂けますよう、心よりお願い申し上げます。